



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



●移植したサンゴのその後 ーサンゴの育成ー

毎年5、6月に、阿嘉島のまわりでたくさんのミドリイシサンゴが産卵することは、みなさんも知っているとおります。今年も阿嘉校のみなさんは、6月7日にマジノハマで産卵するウスエダミドリイシを自分の目で観察したことと思います。ウスエダミドリイシのほかにも、十数種の子ドリイシが産卵するのを、今年もマジノハマで観察しました。

阿嘉港の中のサンゴも、同じく6月7日に産卵しました。翌日、港の中に赤潮のような卵の集まりが浮いていたのを見た人もたくさんいると思います。ただしこれらの卵は、コンクリートの岸壁に打ち寄せたためでしょう、翌朝には、ほとんどがくずれていて、まもなく死んでしまいました。せっかく産まれた卵も、岸壁や砂浜に打ち寄せられるとほとんどは死んでしまいますし、運よく沖に流され

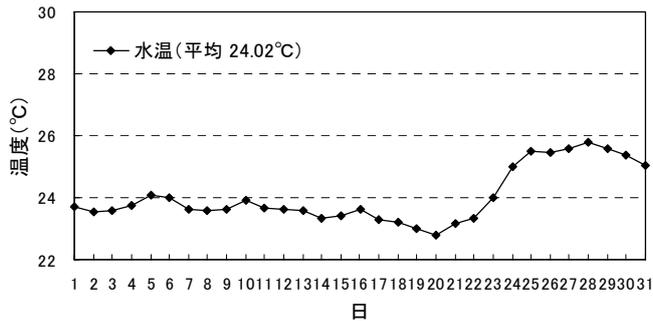
て無事プラヌラ幼生になっても、うまく岩などにくっついてサンゴとして成長できるのは、ごくわずかだと考えています。そこで、研究所では、そうやって死んでしまう卵をうまく活かして、サンゴ礁の回復などに役立てられないかと考えて、数年前からサンゴを卵から育てる研究を始めました。そして今は、小さなサンゴが海藻におおわれて死んでしまわないように、海藻を食べて掃除してくれるタカセガイ（サラサバテイ）といっしょに育てることで、たくさんのサンゴを大きく育てることができるようになりました。知っている人も多いと思いますが、阿嘉港に浮かんでいるいかだの下にはたくさんかごが吊るしてあって、その中でサンゴを育てています。

去年の12月には、慶良間海域保全連合会のみなさんといっしょに、そうやって育てたサンゴをマジノハマに移植しました。このサンゴたちは、2005年6月に^{きばん}基盤（今回はコンクリートやタイルの板を使用しました）に付いたもので、ですから、1年半の間、かごの中で育てて自然の海の中に移植したことになります。そしてこの6月には、移植してから半年、誕生から2年がたちました。サンゴたちはどうしているのか、つい先日海にもぐって観察してきましたので、簡単に報告します。

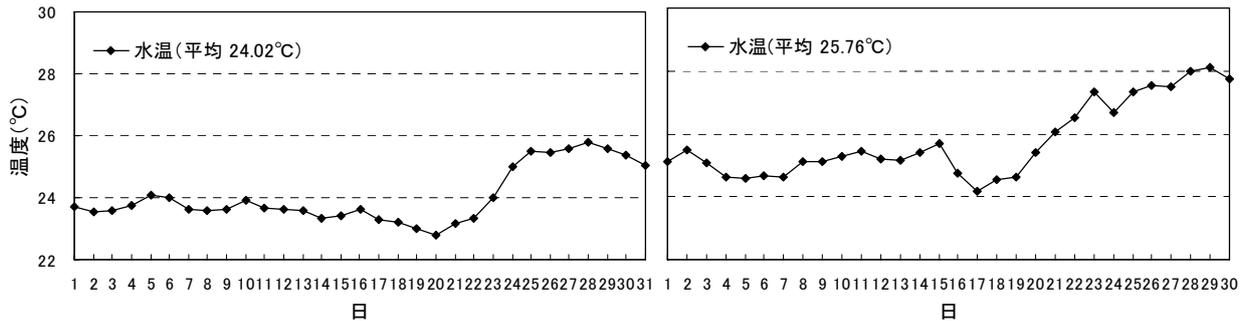
まだ、記録をきちんと整理していない

定点観測

2007年 5月



2007年 6月



ので、今回は大まかなことを書きます。去年の12月に移植したのは、サンゴのついた基盤合計158枚で（サンゴの数は、計算上では小さなものを入れておよそ2000群体でした）、サンゴは大きいもので直径7-8cmほどでした。この半年の間に、時々枝の先が折れていたり（魚にかじられたのではないかと考えています）、海藻におおわれたり、原因不明で死んでしまったりしましたが、この6月の観察では、サンゴが全滅した基盤は6枚だけで、残りの152枚では少なくとも1群体以上のサンゴが生きていました。そして、生き残っているサンゴの大半は、色が少し淡い感じがするものの、夜には触手をのびして、なかなか元気そうです。また、直径13-14cmほどに成長したサンゴもいて、間近で見ると、移植したときに比べてぐっと迫力が増しています。枝の間にサンゴガニやスズメダイの幼魚がかくれすむようになっているサンゴもあり、それを見ると、人の手で作り育てたサンゴたちが、自然のサンゴ礁の仕組みの中に、しっかりと溶け込んでいるように感じてうれしくなりました。ぜひ、みなさんも見に行ってみてください。

ただ心配なのは、サンゴを移植した根に海藻を育てるクロソラスズメダイ（アムスルだより No.74 で紹介しました）が数個体すんでいることです。すでにいくつかのサンゴは、その海藻畑の一部におおわれています。どうしたものか、対策

に困っているところです。

ずいぶんと大きくなったサンゴたちですが、今年は産卵しませんでした。まだ2才ですから産まないだろうと思っていたものの、その順調な成長ぶりから「もしかしたら」と、ちょっとだけ期待していたのですが、それは来年以降にもちこしです。人が卵から育てたサンゴが、卵を産んで次の世代を生み出すことが確認できたら、とても素晴らしいことだと期待しています。

研究所では、今年もサンゴを育て始めました。まだ、1mm くらいの小さなサンゴたちですが、阿嘉港のかごの中で順調に育っています。大きく育ったら、またみなさんといっしょに自然の中に帰したいと思いますので、どうぞご協力をよろしくお願いします。

● 阿嘉島の海より

本文冒頭でも紹介しましたが、今年も恒例となった阿嘉小学校のサンゴの産卵観察会がおこなわれました。生憎の雨模様でしたが、3年生から6年生までの全児童が参加しました。海で、しかも暗い時間におこなう観察会のため、毎年ダイビング協会や父兄のみなさんも全面的にバックアップしてくれます。暗い海の中で生まれる新たな生命は子供達に何を与えてくれたのでしょうか。

